

【評価実施概要】

事業所番号	3491500181
法人名	医療法人 紅萌会
事業所名	グループホーム 春
所在地	福山市王字町1丁目4番5号 (電話) 084-973-3131
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31-201
訪問調査日	平成 19 年 10 月 26 日

【情報提供票より】(平成19年8月31日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18 年 10 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14 人 常勤 10 人 非常勤 4 人 常勤換算 13.4 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り 4 階建ての 3 階 ~ 4 階部分
------	-----------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金か)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1200 円	

(4)利用者の概要(8 月 31 日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名
要介護3	5 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名
年齢 平均	86.3 歳	最低 76 歳	最高 101 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	福山記念病院・柚木歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム春」の事業主体は医療法人紅萌会であり、医療との連携がある為、利用者、家族にとって安心感の持てる体制である。開設1年とは思えないくらい、管理者、職員が一丸となり、利用者主体で質の向上に努力し、スムーズな支援がなされていた。限られたスタッフの中で信頼関係が保たれお互いの協力のもと、無理のない介護サービスができています。ホーム全体が穏やかで入居者も安心して過ごせる雰囲気である。業者が毎日清掃しており、生活空間は清潔で空気によどみはない。家族との関係、地域との連携もスタッフの努力で円滑におこなわれている。地域に根付いたホームとなるよう努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	開設1年で今回初めての評価である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員に意見を聞かれ、自己評価を作成している。質の向上に前向きに取り組む姿勢が感じられる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では活発に意見が出て有意義な会議となっている。又、そこで出された意見についても真摯に取り組まれている。熱帯魚の飼育の提案があり、生き物を飼うことによって利用者への話題や家庭的な雰囲気作りに役立てられている。次回は市町村担当者が出席予定であり、ホームの質の向上に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族からの要望は直接聞いている。出された意見はミーティングで取り上げ話し合っている。話し合われた内容については利用者へ反映できるように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入され、行事に参加されている。又、町内会長との連携が密であり、地域との関わりが徐々に広がりつつあるが、今後も機会を見つけて積極的に取り組む予定である。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム発足から4ヵ月ぐらい経って完成。管理者、職員でBS法で意見を抽出し、それに基づき理念が作られている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月2回のカンファレンスを開催し、スタッフ間で十分に話し合い共有が図られている。又、個人の気持ちを大切に、理念に沿ったケアサービスに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、一斉清掃や行事等に参加されている。町内会長さんが協力的で地域に馴染む努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価が初回である。自己評価はスタッフの意見を聞き作成されている。外部評価の意義も十分理解されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一回開催されている。会議を通して出された意見は真摯に受け止められ、実行されている。今後は市町村担当者も出席予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険に関する問題点を市の担当者に相談し、質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	たよりは2ヶ月に一回程度発行されている。個々の情報は電話や文書で細かく報告されていて、コミュニケーションや信頼関係を崩さないよう配慮されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱は設置しているが入らない。要望は直接口頭で聞いている。運営推進会議でも要望を聞き、運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在のところ異動はない。法人としても異動に対する影響を理解し、最小限にするよう配慮している。		
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は月1回全員行くようにしている。外部研修は順次行く予定である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個人的な交流はあるが、ホーム全体としての交流や連携となっていない為、今後の課題とされている。	○	他ホームとの見学や事例検討の機会を通じ、質の向上につなげていかれることの早期実現に期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族の要望での入居が多いが、できるだけ利用者の不安を和らげ、馴染んでもらう工夫をしながらサービス開始に努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>個々に得意なものを把握し、声かけなどで共感したり利用者からねぎらいの言葉をかけてもらったりする場面がある。</p>		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、利用者の思いを重視し、表情や言葉で意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の支援してほしいことを書き止め、職員の意見を聞き、利用者主体のプランに反映している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>最低でも3ヵ月に1度の見直しを行っている。状態に変化が起きた場合は家族とも相談しながら、随時行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状態を重視し、必要なサービスが受けられるよう柔軟に検討し、支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	火曜に往診があり、家族への結果報告についても確実に行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師との話し合いを行ない、本人、家族の希望を踏まえ、ぎりぎりまで看れるところまで看る努力している。職員間でも統一したケアがなされるよう一丸となって取り組まれている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人を尊重しプライバシーを損なわないような声かけがなされている。個人情報の取り扱いについても鍵のかかる場所に保管され注意をはらっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で、起床、お風呂、食事について希望に沿った支援がされている。そのひとらしく、臨機応変に日々の過ごし方を工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のなかに食事の盛りつけの得意な人がいる。下膳も可能な人はやってもらっている。食事風景も幸せそうにゆったりとしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	平均2日に1回の入浴となっている。また個々の希望に合わせて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意な分野を把握し、その人らしく張り合いのある生活となるよう、個々に対応している。花の水遣りや畑仕事など経験を発揮できる場面を作っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は毎日、ドライブや買い物など日常的に外出し気分転換が図られている。歩行困難者は車イスで外出している。職員と利用者が一対一で外食し、好みの物が食べられるよう支援してその人に寄り添った支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物構造上、安全性を重視しドアロックしているものであるが、鍵をかけないことの重要性を理解し、検討中である。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難訓練は年2回、緊急連絡網の訓練は実施している。		施設が3階4階にあるためあらゆる災害に対する意識を高め、訓練の積み重ねが大切である

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量は把握されている。水分摂取については不足しないよう、飲みやすい飲み物で工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内清掃は毎日業者が行なっているため全体が清潔である。共用の場所は空気のだよみもなく過ごし易いようである。季節にあわせた壁かざりもあり、落ち着いた暮らせる空間である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのある品が配置されていて、個々の好みに合わせられていた。居心地良い生活が確保されている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 春 3階

評価年月日 19年 10月 26日

記入年月日 19年 11月 9日

記入者 代表/管理者 氏名 大崎 ゆかり

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「その人らしさ」を大切にしたい理念を作り、実現出来る様に努力している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日心掛けて行い、時には話し合いをしながら理念に近づける様、取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	また理解されていない家族の方もおられますが、話をし理解して頂ける様取り組んでいる。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内会長さんが来て下さいますが、その他の隣近所の方々とは挨拶しているぐらいです。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	納涼祭などで、近隣の方や他施設と合同で行い交流が図れる様努力している。		地域活動に積極的に参加出来る様にしていきたいです。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	出来ていない。		これから長寿サロンなど、地域行事に参加し、取り組んで行ける様にしたい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	今回の自己評価及び外部評価にて、評価を活かした改善に取り組んでいきたい。		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	運営推進会議の話し合いの中で意見交換を行いサービス向上につなげていける様に話し合いをしている。		
9	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	運営推進会議など、声掛けを行い、行き来出来る様にしている。		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	介護福祉士を受験している職員は理解しているが、ヘルパー資格の職員はまだ理解出来ていない。		権利擁護事業、成年後見制度についての勉強会を行い、職員全員が理解出来る様にしていきたい。
11	<p>虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	勉強会などで職員全員が学んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	行っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者が直接、職員に言える様な環境を作る様に努力している又、言いにくい事などを書いて入れる、ご意見箱を設置している。又、利用者の意見、不満、苦情は職員全員に報告する。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	個々に電話したり、面会時に報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	直接、職員に言える様な関係作りをする様にしている。又、ご意見箱を設置している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	意見や提案を個々に聞いたり、カンファレンスで話しを聞く様にし、みんなの意見を取り組む様にしている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員の人数が不足100%はないが、職員の確保、勤務の調整を行い、100%に近づける様に努力している。		職員を求人で募集している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	現在のところ、異動、離職はなし。		異動、離職者が出る場合、利用者に事情説明を行い、動揺のないようにする。
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	開設して1年未満のため、年間研修のスケジュールが把握出来ていません。施設内研修は月1回実施しています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	していない。		地域の同業者と交流、ネットワークづくり、勉強会等、案内があれば積極的に参加したい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	問題が発生した場合、中に入り、話を聞き、問題解決に努めます。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	勤務状況は勤務表により、日々確認しています。		カンファレンス等に参加し、現場の状況を把握し、意欲の出る職場に努める。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居前に(面談時)今したい事、出来なくて困っている事など、ゆっくりと話を聞いている。		入居前に聞いた、今したい事を職員間で話し合い、入居後に出来る事を支援していく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に自宅などに伺い、今困っている事、希望している事などを話し合う機会を作っている。</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>他のサービス利用が出来ていない。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>家族の希望での入居が多く、入居後に徐々に馴染んで頂ける様、家族に協力して頂いている。</p>		
<p>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>				
27	<p>本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者さんは個々に得意な物があり、花の育て方、洗濯物の干し方、たたみ方、料理方法など職員が教えてもらっている。</p>		
28	<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>利用者さんが、今まで出来なかった事が出来た時など、家族と連絡を取り共に喜ぶ。逆に悪くなった時も連絡を取り、どうしたらいいか話し合う。</p>		
29	<p>本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>入居前の家族との関係を聞き、入居後もより良い関係を続けて行ける様、家族との連絡を取り合い支援している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの人との関係が途切れない様、家族にも協力して頂いているが、馴染みの場所へ行く事はほとんどしていない。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>食事やグループワーク、レクレーションなどを利用者全員で顔を合わせ、楽しく行える様、利用者同士の関わりを大切に支援している。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>退居後も利用者さんの自宅に様子を見に行ったり、利用者さんが遊びに来たりしている。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント </div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>一人ひとりの思いや、暮らし方の希望は職員全員で把握し、それに出来るかぎり近づける様、努力している。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>職員全員が把握出来る様、フェイスシートを利用している。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>一人ひとりの今の心身状態、有する力等、カンファレンス時に話し合い把握する様、努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>本人が今どうしたいか、何をしたいかを話し合い、その後家族に本人の思いを伝え、本人、家族の希望に近づける様な介護計画にしていく様、努力している。</p>		
37	<p>状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>変化が請じた時には、すぐに家族と連絡を取り、今後どうしたら一番良いかを話し合い、新たな計画を作成する。</p>		
38	<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>利用者一人ひとりに各担当があり、気づきなどの情報をカンファレンス時に共有する。その情報と個別記録をもとに介護計画の見直しを行う。</p>		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>買物など、本人希望時に行っている。ドライブなども、利用者希望時に行っている。</p>		
----	---	---	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	<p>地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>チャレンジウィークなどで、中学生が来て話をしたり、行事など（今回は納涼祭）でボランティアに来て頂き、職員と共に支援して頂く。</p>		
----	--	---	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	<p>他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。</p>	<p>リハビリの先生に来て頂き、リハビリのやり方などを教えて頂いている。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>出来ていない。</p>		<p>今後は協働していきたい。</p>
43	<p>かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	<p>毎週火曜日に訪問診療に来てもらっている。訪問診療以外の時は職員と一緒に病院受診に行っている。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>訪問診療時や受診時に相談し、治療を受けている。</p>		
45	<p>看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>協力病院の看護職員と相談し、健康管理や医療活用の支援を行っている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時、病院関係者との情報交換は常に行っている。又そうした場合に備えて連携している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時に終末期のあり方について話し合っている。又、かかりつけ医等とも話し合い、方針を共有している。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>終末期の利用者が安心して暮らせる様に、かかりつけ医と共にチームとしての支援に取り組んで、いつでも何かあったら、かかりつけ医へ行ける様にしている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>グループホームから自宅へ帰られた利用者さんしかおられない。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1 その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p> </div>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>職員同士で言葉掛けに注意をし合い、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けをしない様に心掛けている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人が、どの職員にも自分の思いや希望が言える様な関係作りをし、自己決定を尊重している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>朝起きる時間も、夜寝る時間も本人のペースに合わせている。日中はテレビを見る人、塗り絵をする人と過ごし方は色々、日中寝る時間の長い人のみ声掛けを行います。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	美容は月に1回美容師が来られ、毛染め、カットなどをしてくれる。美容師の来て欲しい時期は利用者さんの希望で決まる。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝食のみ職員が作り、昼、夕は厨房から食事が来るので盛り付けのみです。片付けは利用者と一緒にしています。	○	今後、昼食、夕食も職員が作り、利用者と一緒に取り組んで行ける様にしたいです。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の好きな物、食べたい物は職員と一緒に買い物に行き買って来たり、家族が持って来たりしている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導、声掛けを行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居時、一人ひとりに希望を聞き、希望に添った入浴を心掛けている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼寝をしたい方や、昼間寝ずに夜ゆっくり寝たいという方など、利用者に応じて対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの趣味や生活歴を把握し, 花が好きな人, お針が好きな人, 家事が好きな人など, 一人ひとりに対応する様支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	お金を所持し, 管理出来る利用者は数人で, 数人の利用者は買い物時, 自ら欲しい物を選び支払いしている。その他の利用者は職員が支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	ドライブや散歩, 買い物など, 利用者希望時に出かける。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	家族と共に出かける事はあるが, 職員と行くことは出来ていない。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は職員に声を掛けて頂き, グループホームの電話を自由に使用して頂ける様にしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族, 知人など, いつでも気軽に訪問して頂ける様, 声掛けを行っている。訪問時, 居室やリビングで利用者と共に過ごして頂いている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束に関する勉強会に出席し、(職員全員)職員の身体拘束に対する正しい理解を見につけ、身体拘束をしない。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>出入口は自動ドアになっており、出る時はボタンを押して出る様になっている。希望時はいつでも出られる様にしている。</p>	○	<p>今後、ボタンを押さなくても自由に出る事が出来る様にしていきたい。</p>
67	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>夜間の定期的の巡視や日中の様子を把握し、安全に配慮している。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>している。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>事故防止の為、勉強会に出席したり、職員間で利用者一人ひとりの状態の話し合いを行い、事故防止に取り組んでいる。</p>		
70	<p>急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。</p>	<p>急変や事故発生時の為の救命救急の勉強会に出席し、訓練を行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、利用者と共に避難訓練を行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	起こりうるリスクについては、家族と連絡を取り合い対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調変化、異変時、すぐに協力病院へ連絡し、必要に応じた対応を行う。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局より頂く薬の目的、副作用など記しているものをファイルし、職員全員が服薬の支援と症状の変化の確認が出来る様にしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	毎日、10時のおやつに、ヨーグルト（毎日違った果物を入れる）を食して頂き、日中に歩行練習や散歩などを行う。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔清拭の声掛け、支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの食事摂取量、水分摂取量の把握を行い支援している。</p>		
78	<p>感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)</p>	<p>全職員、勉強会に参加したり、感染予防のマニュアルを作り、それをファイルし感染予防に努めている。</p>		
79	<p>食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>調理用具、食器等、食洗機で高温消毒、除菌を行う。</p>		
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>当グループホームには3階、4階にあり、1階玄関ホールには季節折々の花が飾ってあり、入りやすい環境にあると思う。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った利用者同士、テーブルにつき、話をしている。 又、廊下端の窓際に座り話をしている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、今まで使用していた馴染みのタンスなどを持ってきて頂き、使用してもらっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室には換気設備がある。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下、トイレ、浴室には手すりがあり、残存機能を生かした生活が出来る様に配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダには利用者の育てた花や、家事の好きな方が洗濯物を職員と一緒に干したり、取り込んだり出来る様、活用している。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 春 4階

評価年月日 19年 10月 26日

記入年月日 19年 11月 9日

記入者 代表/管理者 氏名 石津 ひで子

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	ブレインストーミング法で出た意見を分担し、セブクロス法で整理し、理念を作り上げた。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日々、心がけてはいるが、まだ取り組めてない部分がある。		個々に応じたケア、満足して頂けるケアを行えるよう日々努力する。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	定期的に地域推進会議を開催し、地域の情報を収集し、グループホームを知って頂くよう努力している。家族の方には入居時、説明し理解して頂けるよう取り組んでいる。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	挨拶はしている。 町内会長さん以外の方が来られることはない。	○	隣近所の方々と顔見知りになれるよう町内のイベントの参加を心がける。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	開設前に町内会への説明を行っている。 開設前には一般公開として、地域の皆様にも見て頂いている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>グループとして地域に密着した医療に取り組んでいるので、当グループホームも取り組んでいきたいと考えているが開設して10ヶ月、実際のところは、高齢者の方々に役立つような取り組みはできていない。</p>	○	<p>地域の老人会の催しへの参加や地域の方々と話し合いの場を設けていきたい。</p>
<p>3 理念を実践するための制度の理解と活用</p>				
7	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>実施するにあたり、職員間で十分な話し合いができていないが、意義は理解している。</p>	○	<p>職員間で自己評価、外部評価の意義を話し合い、より良いケアができるよう頑張っていきたいです。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>地域の情報や苦情、又活動を知ることでも利用者が地域の方々と接することができないかと考慮している。</p>		
9	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市担当者の方に、分からないことは聞いているが頻回に行き来はしていない。</p>	○	<p>サービスの向上に向けて、市職員の方々の意見を聞いたりする機会を増やす努力をします(時間をつくる)。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>ケアマネ研修で少し勉強した位で、知らない職員がほとんど。</p>	○	<p>今後は勉強する機会を持ちたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>勉強会で虐待について学んでおり、言葉の暴力も含め、当グループホームでは見過ごすことのないよう注意している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>二人以上のご家族同席の上で説明し、契約を交わしている。質問には納得されるまで答えており、理解して頂いている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。</p>	<p>意見箱を用意し、口頭で伝えられない所は記入して頂くようにしているが、今までの所は対話にて伝えている。外部者へは、地域推進会議の時話し合い、知恵をお借りしている。</p>		
14	<p>家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>状態の報告は、面会時や電話を使って行っている。状態異変時は、直ちに連絡している。又、急変時は病院へ搬送と同時に行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>13と同じ</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月2回カンファレンスを行い、話し合っている。他にも都度声掛けをし、意見の交換している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>勤務の調整に努めているが、人手不足は否めない。</p>	○	<p>十分な人手を確保し、より以上のケアを行っていきたい。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	現在のところ、異動・離職者なし。	○	異動・離職者がある場合、利用者に事情説明を行い、動揺のないようにする。
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	開設して1年未満のため、年間の研修スケジュールが把握できていません。施設内研修は月1回実施しています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	していない。	○	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	問題等発生した場合、中に入り話を聞き、問題解決に努めます。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	勤務状況は勤務表により、日々確認しています。	○	カンファレンス等に参加し、現場の状況を把握し、意欲の出る職場に努める。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居前、面談時に困っていることや不安なことをゆっくりと話を聞いている。	○	入居前に聞いたことをスタッフ間で話し合い、安心して生活して頂けるよう支援していく努力を今後も続けていく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24	<p>初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に自宅等に伺い、困っていることや今後の希望等を話し合っ、入居後も連絡を密にとり信頼関係を築く努力をしている。</p>	○	<p>築き上げた信頼関係を崩さないようにしていく。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>他のサービス利用はできない。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>家族の希望による入居が殆どなので入居後、徐々に馴染んで頂けるよう職員と家族の方と連絡を取り合っ協力していつている。</p>		
<p>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>				
27	<p>本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>個々に得意なものがあり教えて頂いたり、手芸を一緒にしたり、出来上がった作品を見て誉めたり、笑いあったりしている。</p>		
28	<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>度々面会のある方、又面会の少ない方もあり都度、連絡を取り、報告したり、協力が欲しい時はお願いして来て頂き、一緒に支援していく形をとっている。</p>		
29	<p>本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>入居前の家族との関係を聞き、入居後もより良い関係が続くよう家族間との連絡を取り合い支援している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人との関係は維持していけるよう家族にも協力して頂いているが、馴染みの場所へ行くことはあまり出来ていない。	○	たまに昔行った店へ食事に行くことはあるが、その他にも馴染みの場所に行って昔の話が出来るような支援をして行きたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事、グループワーク、レクレーションなど全員で顔を合わせ楽しく行えるよう、入居者同士の関わりを大切にしていこう支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居後も様子を見に行ったり、又遊びに来たりされている。		

その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの意向を尊重し、職員がそれを把握して、出来る限り近づけるよう努力している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	職員全員が把握できるようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	月2回のカンファレンスで一人ひとりの状態を話し合いこれ以上出来る事、したい事はないか等、見逃したことはないか話し合っている。連絡帳を使い、連絡ミスのないようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>本人が今、どうしたいか、何をしたいかを話し合い、その後家族に思いを伝え、又家族の意見も聞き希望されるような介護計画に近づけるよう努力している。</p>		
37	<p>状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>変化が生じた時は、すぐに家族と連絡を取り今後どうしたら一番良いか相談し、新たな計画を作成している。又医師の意見も聞いている。</p>		
38	<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>入居者一人ひとりに担当があり、気づき等の情報をカンファレンス時に話し合っている。その情報を記録を元に介護計画の見直しを行っている。</p>		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>外食、買物、外出等、要望に応じるようにしている。</p>		
----	---	---------------------------------	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	<p>地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>チャレンジウィーク等、中学生が来て話しをしたり、行事等でボランティアに来て頂き、職員と共に支援して頂いている。</p>		
----	--	--	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	リハビリの先生に個々に合った、リハビリのやり方を教えて頂いたりしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	2ヶ月に1回の地域推進会議で意見を聞かせて頂いている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	週に1度の定期訪問診療あり。先生にゆっくり話を聞いている。今の所、ご本人、家族よりの苦情はない。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	訪問診療や受診時に相談し、指示を受けたり治療を受ける支援をしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力病院の看護職と連絡を取り相談し、健康管理や医療活用の支援を行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時、病院関係者との情報交換は常に行っている。又そうした場合に備えて連携している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時に終末期医療について話し合っている。かかりつけ医とも話し合い方針を共有している。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>終末期の利用者、家族が安心して暮らせるように、かかりつけ医と共にチームとしての支援に取り組んで、いつでも何かあったら、かかりつけ医へ行けるようにしている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>移り住む際、担当者への十分な情報交換を行っている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1 その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>職員同士で言葉かけに注意を払い、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないよう心掛けている。記録等、個人情報の取扱いは十分に注意している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人がどの職員にも自分の意見や望みを言う事ができる関係作りをしている。自己決定を尊重し支援している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>起床や就寝は各個人のペースに合わせている。日中はテレビ見る人、手芸をする人、様々な楽しみ方を支援し、臥床気味の方には声掛けして、お茶に誘ったり会話を楽しむ雰囲気作りをしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	美容師が月に1回来て、カット等してくれる。又、それ以外でも本人の希望があれば、来て頂いている。本人行きつけへ行きたい方はそのようにしている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝食は職員が作り、昼と夕食は厨房から食事が来るので盛り付けをして頂いている。食器洗いを出来る方が少ないが職員と一緒にやっている。		今後は三食共に職員と利用者とは作り、又献立も相談して決めていくようにしたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	家族の方が持ってきたり、ケーキ、おはぎ、だんご等季節に応じて一緒に手作りして楽しんでいる。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一応、曜日を決めているが、ご本人の希望に添うようにしています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼寝をしたい方は昼食後、休んで頂いている。利用者に応じた対応で支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの趣味や生活暦を把握し、手芸の好きな人、歌の好きな人、花の好きな人等、一人ひとりに対応するようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣い程度のお金を持っておられる方もおられ、外出時の買物や食事等、支払いをされている。その他の方は家族より管理者が預かっているので職員が支払いをしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、ドライブ買物等、出かけるようにしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	桜見物、少し遠くの公園等、お弁当を持って出かける時、家族の方で参加して頂ける方は参加してもらい、楽しいひと時が過ごせるよう支援している。		秋には動物園へ行きたいと計画中。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	職員に声掛けて頂き、グループホームの電話を自由に使っている。手紙のやり取りをされて方にはポストへの投函、届いた手紙を渡す支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問して頂けるように声掛けしている。訪問時、居室やリビングで楽しく過ごせるよう、お茶等の配慮をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>全職員が身体拘束の勉強会に参加し、正しい知識を学び理解し、身体拘束を行わない。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>出入口のドアが自動になっているが、出る時はボタンを押さないといけないが、いつでも出れるように声掛けしている。</p>		<p>出る時もボタンを押さず、出れるようにして行きたい。</p>
67	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>夜間の巡回、日中の様子を把握し安全に配慮している。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>消火器を持ち上げて、投げようとする利用者が居られ、不穏時には注意している。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>事故防止の為、勉強会に出席して学んだり、利用者一人ひとりの行動パターンを把握して事故防止に取り組んでいる。</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。</p>	<p>急変や事故発生時の対応は救命救急の勉強会に出席し、訓練を行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、利用者と共に避難訓練を行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	起こりうるリスクに対しては、家族と連絡を取り合い対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	急変、異変の早期発見のため、日頃の状態を常に把握してゆき、発見時は協力病院へ連絡し必要に応じた対応を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局より頂く薬の効能、注意点を記している物をファイルしており、職員全員が服薬支援、変化の確認に努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	毎日10時にフルーツ、ヨーグルト(パナナやみかん等)を食べて頂き又、水分補給や歩行、体操等でスムーズな排便を心がけている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔清拭の声掛けを行い、自力で出来ない方は介助して行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの食事摂取量、水分摂取量の把握を職員がしており、職員間で声を掛け合って、足りないと思われる利用者の方にはそれぞれ対応している。</p>	○	<p>自由に飲んで頂くように、麦茶を保冷器ポットに用意しているが、自分でついで飲む方は一人のみ。勝手に飲んで頂けるようにしたい。</p>
78	<p>感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)</p>	<p>感染症のマニュアルをファイルしており、全職員が注意を払っている。</p>		
79	<p>食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>調理器具、食器等、食洗機で高温消毒、除菌を行う。</p>		
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>当グループホームは3階、4階にあり、1階玄関は広々とし、季節折々の花が飾っており、入りやすい工夫がなされている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビングに西日が入る為、よしずをつけた。又、西側の居室にもよしずを設置している。季節折々の飾りをつけたカレンダーを職員と一緒に作り、居室に飾っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングのテーブルは自由に気の合った人が集まって話したり、廊下の端で外を見ながら会話したりされている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には使い慣れたタンスを持って来て頂くよう家族にお願いしても、昔のは大きいからと新しい小さいタンスを持って来られる人もある。家族の写真を飾ったり、手芸品を飾ったりして、個々に楽しんでおられる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	エアコンは温度に配慮して使用してる。居室には換気設備があり、気になる臭いはないように心がけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下、トイレ、風呂には手すりがついており、転倒に注意しながら残存機能を生かした生活が安全に送れるよう工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりのペースに合わせ、視線を合わせての会話を心がけている。お互いの意思疎通を図る為、筆談を用いたりもしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	屋上へ行ったり、ベランダで朝陽を浴びたりの工夫をしている。又、ベランダには花や野菜を植えており、水をやったり、咲いた花を見て楽しんでいる。		